

第 23 回(2018 年)にのみや観光フォトコンテスト審査講評

推薦「春うらら」

空を囲うようにサクラを画面に配し、彼方に箱根連山と白雪の富士山。吾妻山から富士山までは直線距離で約 50 キロあり、晴れても大気が霞むことの多いサクラの季節にこれほど明快かつ透明感に満ちた光景と巡り会う機会は稀です。このチャンスを逃すまいと、カメラや携帯で望む人々を画面内にバランスよくフレーミングして、満開を迎えた吾妻山のうららかな陽春感を的確に表現されました。

特選「咲き誇る芝桜の丘」

羽織っていた上着を脱ぎたくなるようなポカポカした日差しの温みが画面から伝わります。シンボルマークとして植栽されたシバザクラの小富士山を高見からやや見下ろすカメラアングルを確保し、画面左手にバランスよく木影を取り込んで程よい奥行き立体感を画面に生んでいます。行楽者の配置と動作を捉えるタイミングも的確で春の好日感が伝わります。

特選「初夏のせせらぎ公園」

花しょうぶ園の木道に映る人影の短さ、花摘む人の折編笠の光の反射の強さから、すでに夏の到来を感じます。花の密度感を盛るよう中望遠レンズを用い花畑をややズームアップ撮影されたことで画面の遠近が程よくつづまり、画面がスッキリ整理されるとともに臨場が加わりました。発色も美しく陽光に花群れが映えます。

特選「交流会で楽しい思い出」

梅沢海岸は夏になると磯遊びや浜でのバーベキューなどで賑わいます。観光地曳網も人気のあるイベントの一つです。が、実際に引いてみるとかなり労力を奪われます。特に、網が引き上がる直前の重量負荷は大きく、蒸し暑そうな天候と相まって引き手のバテる様子がリ

アルです。浜までの遠近もよく出でいますが、右端の女の子はシッカリフレームに入れたい。

特選「魅せられて」

吾妻山のナノハナは例年 12 月下旬頃花群れの密度が高まり、3 月上旬頃まで楽しめます。このショットは花卉の色合いも濃く茎丈もほぼ均等であるところから、最もコンディションのよい 1 月中・下旬頃と思われます。絶好の好天ではあるものの、花見の人々の背が何処となく強張って見え、かなり冷えこんでいる様子が窺えます。気候温暖な二宮ですが、このショットは寒中の冴え冴えした大気感がよく出ています。

第 23 回にのみや観光フォトコンテスト総評

昨年（第 22 回）より作品応募が若干減ってしまい残念です。特に、祭りや年中行事、二宮の開放感に満ちた海の情景や朝夕の色彩変化をモチーフとした海景など、魅力的なシーンへも目を向けて戴けるよう期待します。本年は推薦作品の「春うらら」を始め、季節の花と行楽客を絡めた風景スナップ的作品に「行って見たい」感興を呼ぶ作品が多く見られたことは収穫でした。